

- ◇総会・シンポジウム案内
- ◇桜井市三谷「山野草の里」の保全活動について 村上秀夫(地域P&C第4期)……2頁
- ◇天理でまちづくりを始める なかたにみさこ(地域P&C第4期生)……4頁
- ◇地域P&C 養成塾受講生募集……6頁
- ◇地域P&C 教科書出版ご案内……7頁

総会・地域づくりシンポジウムご案内

一般社団法人地域づくり支援機構の総会・地域づくりシンポジウムを下記のとおり開催いたします。ぜひ、ご参加ください。

日時 2019年6月1日(土) 10:30～11:30 総会
13:00～17:00 地域づくりシンポジウム 17:30～19:00 奥大和を食べる交流会

会場 奈良県文化会館 地下1階 多目的室(奈良市登大路町6-2)

地域づくりシンポジウム・交流会「奥大和の元気大作戦～夢を活かして地域を活かす～」

奥大和は、まだ多くの人によく知られていない地域です。その知られざる可能性に惹かれた私たちは、奥大和で夢をかけて活動しています。よそ者からの新しい視線で奥大和の魅力を活かし、そこから奈良を盛り上げたいという思いで、「奥大和の元気大作戦」がいよいよ始まります。

第11期地域P&C 養成塾生一同

13:00 開会あいさつ

13:05 基調講演「奥大和の魅力」 西久保智美(コミュニティーライター)

地元新聞記者を経て、2010年から、コミュニティーライターとして、地域に暮らしながら地域の「ひと」「こと」を記録し、情報を発信する。2013年からは、地域コーディネータとして、吉野から天川、高野山にかかけた広域連携事業にも携わり「旅」を切り口に地域につながる企画を行っている。



13:50 新地域P&C プロジェクトプレゼンテーション

14:50 休憩

15:10 パネルディスカッション

西久保智美(コミュニティーライター・地域P&C4期生)

立松麻衣子(奈良教育大学教授・地域P&C5期生)

若林稔(今井町並み保存会会長・地域P&C5期生)

石井啓順(東吉野村地域おこし協力隊・地域P&C11期生)

コーディネータ:神剛司(ミュージアムプランナー・地域P&C3期生)

16:20 講演「地域P&C教科書完成を記念して」 村田武一郎(一般社団法人地域づくり支援機構理事長)

17:00 シンポジウム終了

17:30 奥大和を食べる交流会

19:00 交流会終了

桜井市三谷「山野草の里」の保全活動について

村上秀夫(地域P&C 第4期生)

三谷「山野草の里」は、桜井市東北部、大和川本流源流地域で大和高原の一角に位置し標高は350mから500mです。1970年頃まで農林業の営みの中で美しい景観が見られ、多くの動植物の共生する里山でしたが、農林業の不振から田畑や山林の管理放棄地が拡大し、山野草・昆虫が減少し始めていました。20年前に芳原和夫氏(副理事長)が笠山荒神のソバ処を探し、大学時代の友人で三谷在住の福岡定晃氏(前理事長)に助けを求めたそうです。その時に福岡氏が三谷地区の村おこしの話をされ意気投合、その後芳原氏が奥様・友人とともに三谷に通い始めたそうです。有志が集まり2001年4月に「山野草の里づくりの会」を結成し、2003年9月にNPO法人化しました。

遊休農地の復旧や山林の整備等の活動を開始しました。また、どれだけ山野草が残っているか専門家と共に一帯の調査を実施した結果、植物全体で600種以上を記録しました。山野草を維持するには花に群がる昆虫等複雑な生態系を守る必要があることを教えられ、1970年頃まで維持されていた環境に戻せなくとも近づけることが大切であることを学びました。

管理放棄された場所は、ボランティア活動で守れなければ荒れ放題になります。当初は三谷の住民も加わり、農地の復旧等にも取り組みましたが、地元の方は徐々に元の生活に戻られるようになりました。活動範囲は徐々に拡大し自生山野草の調査活動等が困難になり、大阪シニア自然大学校に相談した結果、シニア自然大学校卒業生のサークル「里山の山野草を守る会(里草会)」を結成することができました。山野草の里における「自生山野草の調査及び維持管理」は10年前からこの里草会が行っています。

2005年4月以降は、毎週1回から毎週2回(水曜日・土曜日)に活動日を増やしました。里山の自然を守るために「持ち込まない。持ち出さない」にこだわって活動しています。急傾斜地が多いが山野草の宝庫でもあるクロガリの整備(農地に隣接した山の土手で農地から約5mまでの部分の整備)に力を注ぎ、山野草の生育環境の維持を図っており、里山の美しい景観づくりにもなっています。里山林整備で除伐したクヌギは炭焼き・椎茸づくりに利用し、水田はヘイケボタルや水生昆虫等の棲み処となることから、農薬等を使用せず自然に近い形で毎年古代米を育てています。地元の方、多くの先輩、支援者の皆様のご支援をいただきながら、山野草の里づくりの会、里山の山野草を守る会の地道な努力が実って、2015年12月に環境省から「生物多様性保全上の重要里地里山」(奈良県下5ヵ所)に選定され、日本の代表的な里山の一つと認められるようになりました。地道なボランティア活動の大きな成果です。

私は、2009年、58歳の時に、地域P&C塾に参加させていただき、同期生にも大いに刺激を受けました。2011年の東日本大震災発生の翌月に奈良で開かれた報告会に参加した時に地域P&Cの先輩(2期生の笹野さん)から「山野草の里」の「ホテルのタベ」のイベントを勧められました。山野草の里に行くと、たくさんのホテルが田んぼの畔からゆらゆらと浮き上がっているようで印象に残りました。数か月後に「山野草の里づくりの会」からDMが届き、ボランティア活動に参加しました。里山林に入って手鎌で笹等を刈り取ったのが最初の里山保全の作業です。嘱託勤務をしながら、土曜日は三谷「山野草の里」で活動する生活が続きました。2015年4月に大阪シニア自然大学に入学し、翌5月末に64歳で退職しました。その翌6月にNPO法人山野草の里づくりの会の理事長に推されて引き受けました。

この時期、病気になる方が続き中心メンバー数人が一時に減少したことから、ボランティア集めを何とかしなければならぬ状況でした。前述のシニア自然大学のサークル「里山の山野草を守る会(里草会)」に協力をお願いし、卒業生が里山保全の活動に参加できるように土曜班をつくっていただきました。2018年4月に、3人の方が里草会に入会され、土曜班に所属してNPOの活動日に一緒に活動しています。同じ三谷「山野草の里」

のフィールドで活動する二つの団体のつながりも深めていきたいと考えるようになりました。

シニア自然大学に入ってわかったのですが、講座生は教育実習(関連団体の活動に8回以上参加)が必須で卒業後に希望の団体(任意団体)に入り活動する仕組みがあります。山野草の里でも同様なことができないかと、2016年夏頃から、里山保全等の講座について調べました。奈良森林インストラクター会の江口会長様、事務局長の南様のお二人にお会いすることができ、ご協力をお願いしました。快くお引き受けいただき、経験豊富な森林インストラクターの皆さんを講師陣に2017年6月に第1回目の「里山保全ボランティア養成講座」をスタートしました。刈り払い機やチェーンソーの技能が習得でき、実習に力を入れたカリキュラムです。2019年は第3回目となります。

養成講座修了後にNPOに入会し活動に参加する方も少しずつ増え、会の活動も活性化されてきたと思いますが、まだまだです。会の現在の中心メンバーは10人にも満たないのですが、山仕事、畑仕事、米作り、機械のこと何でも出来る超ベテランです。83歳、79歳、74歳以上の超ベテランの大先輩にもう少し頑張ってもらいながら、もう一度活動開始したころに描いたビジョンを振り返り、当会の講座修了生に加わってもらって新しい活動形態を模索したいと思います。重要里地里山を重荷に感じることなく里山で頑張るボランティア仲間の居場所づくりを目指したいと思います

今回、NAED通信11号(2018年2月1日)の村田先生の「“踊り場”を認識し、地域づくり活動の継続を！」の文章を読み返しました。自分とNPOの活動を振り返る機会をいただき、文章を書きながら頭の中も少し整理できました。ありがとうございました。



左上:チェーンソーの研修(2017年8月) 右上:古代米の田植え(2018年5月)
左下:直近のスタッフ等(2019年4月) 右下:クロガリ(農地に接する斜面)整備(2018年秋)

天理でまちづくりを始める

なかたにみさこ(地域P&C 第4期生)

大阪から移住して早20年。10年前に仕事も活動も奈良に移してから、奈良への関心が始まった。そして、5年前から住んでいるマンションの自治会長になり、地域の実情を肌で感じるようになった。今、国は、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティの育成を叫んでいる。公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことができる「地域共生社会」を実現させるために、地域福祉の推進の理念として、支援を必要とする住民(世帯)が抱える多様で複合的な地域生活課題について、住民や福祉関係者による、1)把握及び、2)関係機関との連携等による解決が図られることを目指す「我が事・丸ごと」のまちづくりの取り組みが推奨されている。国が市民によるサービス充実を提唱するのは、責任放棄ともとれるが、しかし住民自治の観点から見ても必要な取り組みである。

そのような中、天理のまちづくりを体感して気づいたのは、まず、まちづくりが自治会のみになっているということ。各自治会と市全体と各校区に区長連合会が設置されている。そこで全体のことははかられているが、決まった行事の運営が中心でそれ以上の、現状を把握し、検討されることは少ない。

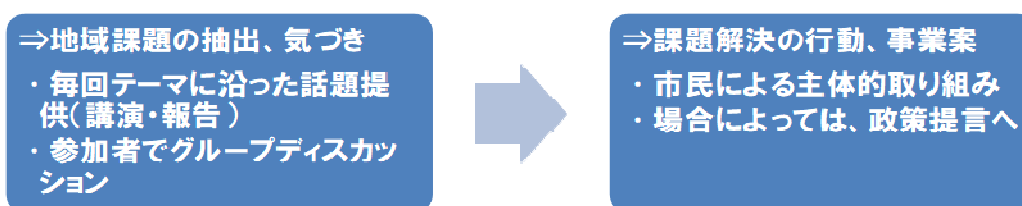
また、地方創生のまち・ひと・しごと創生計画の中で、市民活動のKPIが自治会加入率だけであったところにも見出せた。そして、まちづくりや市民活動に関する中間支援機関が市直営のボランティアセンターで、自治会運営に関する相談にはのってもらえない。

そのような中で、自治会の区長や役員以外がまちのことを語る場がないことを感じていた。地域ごとに関心や思いがあっても話す場がない市民にも、また、行政や誰かが地域の運営をしてくれるものだと思っている市民にとっても、きっかけの場になるような参画と対話の場が必要ではないかとの思いから、2017年後半に、何人かの方にお声をかけて「てんり未来ミーティング」の構想をスタートさせた。

1. てんり未来ミーティング

(1)開催趣旨

天理の数年後～未来について、まちづくりや福祉を主なテーマに、課題や解決策を市民で議論し、行政への要望ではなく、自らや地域が「我が事」として取り組むことにつなげるための議論の場として開催する。



(2)開催場所と頻度、時間

- ・天理駅南団体待合所「ダンマチ」
- ・月1回ペース(当初は月末土曜日の夕方を想定) 約2時間
- ・広報はFacebook ページとイベント。そして会場の広報媒体による告知

(3)これまでの開催内容

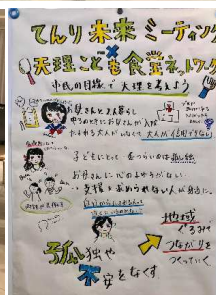
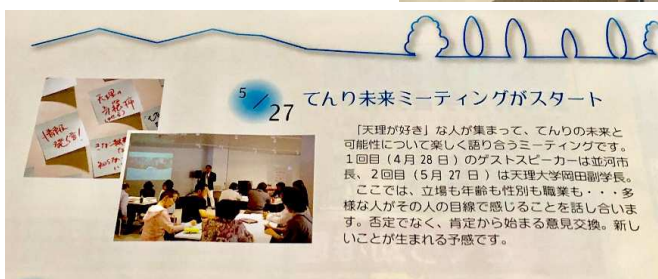
※ゲストスピーカーによる講演、話題提供 ⇒ 主としてワールドカフェ方式によるグループディスカッション

注)ワールドカフェとは、本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話の場。自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる場の一体感を味わえ、未だ嘗てないようなアイデアを生み出せる手法

表. てんり未来ミーティング開催概要

回	日時	テーマ	ゲストスピーカー	参加数
プレ1回	2018年1月31日(水)18時～	(オープニング)	なかたにみさこ	9名
プレ2回	2018年2月28日(水)18時～	関係人口ほか	市本貴志	8名
プレ3回	2018年3月31日(土)15時～	天理に住んで…(地域福祉やボランティア推進の視点から管見する…)	渡辺一城	10名
第1回	2018年4月28日(土)15時～	天理市のまちづくり	並河健(天理市長)	13名
第2回	2018年5月27日(日)17時～	大学があるまち、てんり	岡田龍樹(天理大学副学長)	18名
第3回	2018年6月30日(土)17時～	地域包括ケアシステムについて(医師会の取り組み)	鹿子木和彦(天理地区医師会会長)	22名
第4回	2018年8月19日(日)14時～	【夏の特別企画】 「天理子ども食堂ネットワーク」×「てんり未来ミーティング」 (市内の子ども食堂実践報告、パネルディスカッションほか)	並河 健 桂浄薫(善福寺住職) 市本貴志 ほか	68名
第5回	2018年9月22日(日)18時～	市民活動として期待されるNPO・NGOの現状と課題	佐藤孝則(天理大学おやさと研究所教授)	6名
第6回	2018年10月20日(日)13時～	コフフンの整備と今後	吉本(天理市総合政策課係長)	6名
第7回	2019年4月6日(土)17時～	これからのまちづくりの可能性	松岡修一郎(天理文化の会代表)	33名

注) 敬称略/参加数は世話人やスタッフを除く



(4)運営

「てんり未来ミーティング」世話人会(実行委員会)を結成。メンバーは私、元.天理市理事、子どものキャリア教育関係NPO 理事長、天理大学教授、そしてNARDの大塚徹地域プランナー・コーディネータ。運営方法は、それぞれの世話人の主体性に任せて進めている。

(5)現在

7回の対話の場を終えて、毎回参加者のアイデアによって生み出されてきた模造紙の数々をまとめる予定。

その上で、今後の場をどのようなものにするのか、また出てきたアイデアをどのように扱うのかを検討することになっている。

2. これからの展望

元々この構想を描いた時の一つの到達点は、地域づくりのサポート体制の構築だった。若者の流出、少子高齢化、経済の停滞、そしていつ起こるかかわからない自然災害など、さまざまな社会課題が複雑に絡み合う今、それぞれのセクターのみや組織単体ではなかなか解決に至らない。多様なステークホルダーと一緒に取り組む、協働それ以上の総働することが必要。しかし、そのようなコラボレーションは勝手に生まれるわけではない。仕掛けが必要。参画し出会う場、そのことをコーディネートする中間支援機能。そして市民側の総意を生み出せるネットワーク。その上で、持続可能な形で社会課題の解決を共に目指す仕組みが生み出せると考えた。そのコンテンツの1つとして、まずこの対話の場を生み出した。なので、まだまだ、構想はスタートしたばかり。次なるステップ、中間支援機能を運営できる組織づくりやそのベースとなる市民の総意を生み出せるようなネットワークづくりだと考え、動き始めたので、また報告したい。

それぞれのステージでどのように行政にアプローチし、また政治と連携していくのかも必要な視点だと考えている。そのことも含めて、まだまだ空想のような状態。ぜひ、NARD 内でも、このような視点で学び情報交換できるような場があるとありがたく、そのような機会が生まれることを願う。

地域 P&C 養成塾 受講生募集中

志を同じくする仲間とともに語り、学び、知恵を結集し、切磋琢磨しながら、地域のため、自らのため、プロジェクト実現のために、養成塾に参加しませんか。地域づくりの多様なノウハウと広い分野の専門知識を備え、熱い志に溢れた人材が豊富です。

【第 12 期地域 P&C 養成塾】

◇開講:2019 年 6 月 29 日(土) ~2020 年 5 月 30 日(土) 全 21 回(実践講座、資格認定試験を含む)

◇前期会場:奈良県社会福祉総合センター 3 階第二会議室または 5 階集会室 A
橿原市大久保町 320-11(近鉄畷傍御陵前駅下車徒歩 3 分、駐車場有)

◇後期会場:一般社団法人地域づくり支援機構(NAED)会議室
奈良市油坂町 446-14 奈良安田ビル 5F(近鉄奈良駅下車徒歩約 5 分、駐車場無)

◇募集定員:7 名(申込受付後面談) ※初回から受講できない場合は相談可

◇参加費等:受講料 54,000 円(税込)、資格認定試験料 6,000 円(税込)
※受講に伴う交通費、交流会等の実費は含まれておりません。

◇主催:一般社団法人地域づくり支援機構(NAED)

◇後援:奈良県、奈良県市長会、奈良県町村会、奈良フェニックス大学

◇協力:深野〇〇会、今井町町並み保存会

◇申込/問合せ:養成塾担当:090-3429-9814(神) 080-6122-2727(中辻)

◇Facebook: <https://www.facebook.com/chiikidukurishienkikou/>

◇募集締切:2018 年 6 月 22 日(土)まで

※講義・実習内容等の詳細は、地域づくり支援機構ホームページをご覧ください。



※地域 P&C の皆さまは、ご友人・知人にお勧めください。



いま地域の持続可能性が問われています。各地域は、歴史的に吸収・蓄積したものを「好循環」に結びつけることが望まれます。目標とすべき将来像を議論し共有し、それに向かって、新しい何かを積み重ね続けること、新しい何かを取り入れ続けること、そして、新しい何かを生み出し続けることが必要です。この時、どのような人材がどのような役割を果たすのか、どのような“共働”をつくりだすのかに焦点を当ててみなければなりません。



地域プランナー・コーディネータ14名が執筆

プロローグ いまなぜ地域プランナー・コーディネータが必要とされているのか

- (1)ある町の情景 (2)Kさんの気づきと取り組み (3)Jさんの気づきと取り組み
(4)地域づくりシンポジウムへの参加と得られた基礎知識 (5)地域プランナー・コーディネータとの出会い
(6)いまなぜ、地域プランナー・コーディネータが必要とされているのか？

第1章 いま地域は—地域の持続可能性を

- (1)人口減少・少子高齢化 (2)地域資源の発掘とEcological Development (3)生物多様性と地域環境の保全
(4)SDGsとまちづくり (5)他地域との交流・連携 (6)地域産業とソーシャルビジネス (7)地域の食文化・伝統料理・6次産業化
(8)地域福祉と居場所づくり (9)地域の教育 (10)公共サービスと市民活動 (11)地域における協働と多様な主体の参画
(12)地域エネルギー (13)地域防災 (14)空き家活用

第2章 地域プランナー・コーディネータの役割とポジション

- (1)地域をとりまく社会状況 (2)地域づくり人材の育成・確保の必要性 (3)地域プランナー・コーディネータの役割と位置
(4)地域における地域プランナー・コーディネータのポジション (5)地域プランナー・コーディネータの活動例

第3章 地域発展の構図とステージ

- (1)地域発展とは (2)地域発展の構図 (3)時間軸と空間軸への意識
(4)地域プランナー・コーディネータが地域発展の各ステージにおいて担うべき留意すべき役割
(5)持続可能な地域を創る

第4章 事例に見るEcological Developmentと地域プランナー・コーディネータの役割

- (1)明日香村における地域づくり (2)冷井町のまちづくり
(3)新しい田舎の時代がやってくる—宇陀市室生深野の活動
(4)高取町「町家の雛めぐり」 (5)移住促進における“空き家”と“人”の課題と対策

第5章 地域プランナー・コーディネータに求められる資質

- (1)地域発展の構図とステージへの理解に基づく適切な支援・協力 (2)地域資源発見能力とCONTEXT能力
(3)「か・き・く・け・こ」と情報収集アンテナそして情報整理の仕組み (4)地域の人々へのリスペクト (5)たゆまぬ自己研鑽
(6)プレゼンテーション技術 (7)合意形成のデザイン (8)事業計画作成に関わる注意点と心得

第6章 地域プランナー・コーディネータの“つぶやき”と後輩への助言

- (1)地域プランナー・コーディネータに必要な視点と心得 (2)同じ思いをもつ地域の人たちとの協働・連携
(3)辛抱を相棒に継続し続ける (4)自分たちが住む地域の良さを見直そう・見つけよう (5)NAEDは梁山泊だ！
(6)あなたにしかできない地域づくりを (7)“よそ者”にしかできないことが多く存在する
(8)地域づくりは“和をもって尊しとなす” (9)地域おこし協力隊員奮闘記



10年超にわたる、地域の将来を拓く人材の養成を踏まえて編集

地域プランナー・コーディネータ教科書出版のご案内

体裁等：DVD-R(PDF文書所収) A4版117頁 定価：1,000円(税込) 発行日：2019年4月2日
編著者：一般社団法人 地域づくり支援機構「地域プランナー・コーディネータ教科書編集委員会」
発行者：OM環境計画研究所

お申込み先<vision@nit-ass.jp>

- ◇氏名、所属、送付先、メールアドレス、必要部数をお知らせください。
◇定価1,000円+送料(1部の場合140円)をご負担ください。